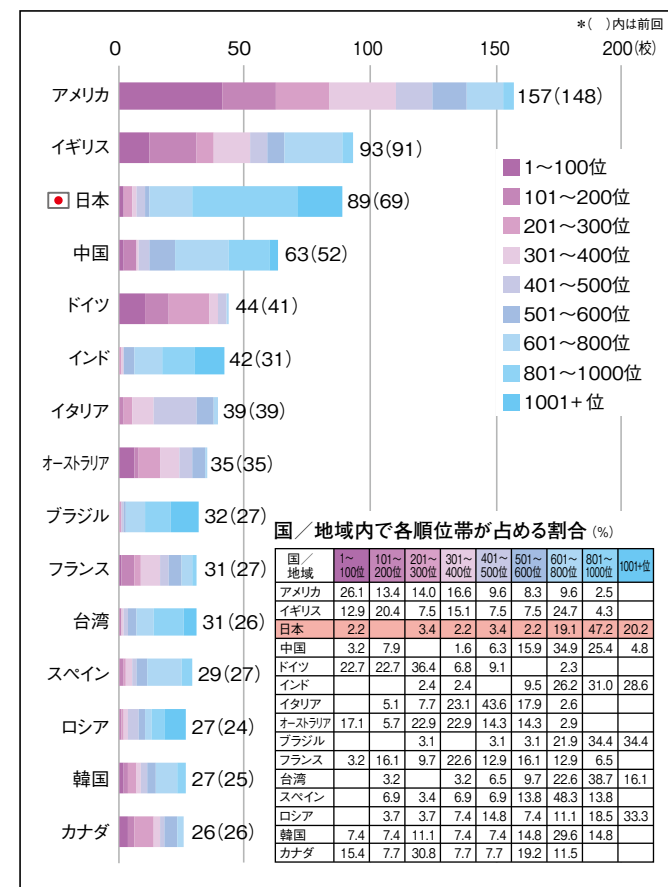


TOP200内の国／地域別校数とトップ大学 [図表3]

国／地域	校数 ( )内は前回	国／地域内で最高順位の教育機関とその順位
アメリカ	62 (63)	カリフォルニア工科大学／スタンフォード大学 ▼ 3位
イギリス	31 (32)	オックスフォード大学 1位
ドイツ	20 (22)	ルートヴィヒ・マクスミリアン大学ミュンヘン ▼ 34位
オランダ	13 (13)	アムステルダム大学 59位
オーストラリア	8 (8)	メルボルン大学 △ 32位
中国	7 (4)	北京大学 △ 27位
スイス	7 (7)	スイス連邦工科大学チューリッヒ校 ▼ 10位
カナダ	6 (8)	トロント大学 22位
フランス	6 (4)	PSL研究大学パリ ▼ 72位
スウェーデン	6 (6)	カロリンスカ研究所 ▼ 38位
香港	5 (5)	香港大学 △ 40位
ベルギー	4 (3)	ルーヴェン・カトリック大学 ▼ 47位
韓国	4 (4)	ソウル大学 ▼ 74位
デンマーク	3 (3)	オーフス大学／コペンハーゲン大学 ▼ 109位
フィンランド	2 (1)	ヘルシンキ大学 △ 90位
イタリア	2 (2)	聖アンナ大学院大学 ▼ 155位
日本	2 (2)	東京大学 ▼ 46位
シンガポール	2 (2)	シンガポール国立大学 △ 22位
スペイン	2 (2)	ボンベウファブラ大学 △ 140位
オーストリア	1 (1)	ウィーン大学 ▼ 165位
アイルランド	1 (1)	トリニティカレッジダブリン △ 117位
ルクセンブルク	1 (1)	ルクセンブルク大学 ▼ 179位
ニュージーランド	1 (1)	オークランド大学 ▼ 192位
ノルウェー	1 (1)	オスロ大学 ▼ 146位
ロシア	1 (1)	M.V.ロモノーソフモスクワ国立総合大学 ▼ 194位
南アフリカ	1 (2)	ケープタウン大学 ▼ 171位
台湾	1 (1)	国立台湾大学 ▼ 198位

\*[△]:前回よりアップ/[▼]:前回よりダウン(いずれも前回のトップ大学の順位)

国／地域別の各順位帯ランクイン数 [図表2]



THE世界大学ランキングの2018年版が9月に発表された。高等教育界における人や資源の国際流動性が高まり、質保証の国際性が問われる今、ランキングを一つの材料として激化する国際競争を生き抜く戦略を考えたい。

表2、3を見ると、中国の躍進がめだつ。全体のランクイン数は前回の52校から11校増え63校に、世界の「トップ大学」と目されるTOP200へのランクイン数も、4校から7校に増えている。前回は「1001+位」の順位帯はなかったため、この順位帯はどの国／地域にとってもランクイン数の上積みとなるが、中国の場合「下限が広がったから増えた」のではなく、より上位の順位帯でランクイン数を増やしている。その国の最高順位の教育機関に着目すると、フランス、イタリア、スペイン、オランダでは、前回と大学が入れ替わっている。各国内で活発な競争が行われていることがうかがえる。

日本のランクイン数は、「1001+位」の順位帯が追加されたこともあり、前回の69校から89校へと20校増加した。校数では世界3位を維持し、2位のイギリスに迫る勢いだ。会津大学、藤田保健衛生大学などの特徴ある大学や、多数の地方国立大が初ランクインを果たしている（P.5図表5-1）。

一方、順位について見ると、TOP200へのランクイン数は2校のままで、7割弱は801位以下の順位帯である。このように日

本は上位大学争いでは世界に後れを取っている。政治的な要因が強く影響イギリスは今後に不安

ランキングは、国際情勢や各国の国内事情に大きく左右される。今回各トップ大学の順位が上昇した中国、香港、シンガポールなど、アジア諸国の台頭には、国が政策として国際競争力の強化に取り組んでいる背景がある。世界各国から優秀な人材を招く、他国の企業とパートナーシップを結ぶ、国家プロジェクトに参加するといった取り組みを、予算面でも後押ししている。

一方、イギリス、オーストラリアなどは国が高等教育予算を削減しており、環境が厳しくなりつつある。中でもイギリスはEU離脱により、EUから得ていた研究助成金を失う可能性がある。今後、ランキングにその影響が出るかもしれない。

**国際競争力強化に向け 大学改革への活用を**

日本の大学の眼前には多数の課題がある。18歳人口は、2025年に109万人になる予測で、こ

THE世界大学ランキング TOP10 [図表1]

順位 2018 Rank	順位 2016-17 Rank	国／地域 Country/region	教育機関 Institution
1	1	イギリス	オックスフォード大学
2	4	イギリス	ケンブリッジ大学
=3	2	アメリカ	カリフォルニア工科大学
=3	3	アメリカ	スタンフォード大学
5	5	アメリカ	マサチューセッツ工科大学
6	6	アメリカ	ハーバード大学
7	7	アメリカ	プリンストン大学
8	8	イギリス	インペリアル・カレッジ・ロンドン
9	=10	アメリカ	シカゴ大学
=10	9	スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ校
=10	13	アメリカ	ペンシルバニア大学

Report THE世界大学ランキング 2018年版結果分析

**TOP200に7校 存在感を強める中国**

イギリスの高等教育専門誌THE (Times Higher Education) は、2018年版の世界ランキングを9月5日に発表した。2016-17（以下、「前回」と比べて調査方法に大きな変更はないが、ランクイン数は前回の980校から1102校に増加した。TOP10の顔ぶれを見ると（図表1）、THE世界大学ランキング史上初めて、TOP2をイギリスの大学が占めた。4位から2位に順位を上げたケンブリッジ大学は、研究収入と研究の質の向上がランクアップの要因だ。

国／地域別のランクイン数（図

取材・文／見山雄介



【図表5-1】 国立 公立 私立  
日本の大学ランキング表

2018年の順位	2016-17年の順位	教育機関	THEランキング 日本の順位
46	39	▼東京大学	1
=74	=91	△京都大学	3
201-250	251-300	△大阪大学	6
◇	201-250	東北大学	2
251-300	251-300	東京工業大学	=4
301-350	301-350	名古屋大学	=4
351-400	351-400	九州大学	7
401-500	401-500	北海道大学	8
◇	401-500	東京医科大学	38
◇	401-500	筑波大学	9
501-600	—	◎藤田保健衛生大学	151+
◇	401-500	▼首都大学東京	=24
601-800	—	◎金沢大学	23
◇	601-800	千葉大学	16
◇	501-600	▼広島大学	12
◇	601-800	順天堂大学	—
◇	—	◎香川大学	=97
◇	601-800	金沢大学	19
◇	601-800	慶應義塾大学	11
◇	601-800	神戸大学	13
◇	601-800	高知大学	=80
◇	601-800	熊本大学	26
◇	601-800	名古屋市立大学	=99
◇	601-800	岡山大学	21
◇	601-800	大阪市立大学	47
◇	601-800	東京農工大学	=31
◇	601-800	東京理科大学	=31
◇	601-800	早稲田大学	10
◇	601-800	横浜国立大学	52
801-1000	801+	中央大学	=55
◇	601-800	▼愛媛大学	=64
◇	—	◎電気通信大学	=43
◇	801+	岐阜大学	=72
◇	—	◎浜松医科大学	92
◇	801+	法政大学	—
◇	801+	岩手大学	66
◇	601-800	▼東京慈恵会医科大学	151+
◇	—	◎鹿児島大学	74
◇	—	◎関西医科大学	141-150
◇	601-800	▼近畿大学	54
◇	—	◎北里大学	91
◇	—	◎京都工芸繊維大学	=60
◇	801+	九州工業大学	=28
◇	801+	明治大学	34
◇	—	◎三重大学	=86
◇	—	◎宮崎大学	101-110
◇	801+	長岡技術科学大学	17
◇	601-800	長崎大学	=28
◇	601-800	▼名古屋工業大学	=60
◇	—	◎奈良県立医科大学	151+
◇	601-800	◎新潟大学	30
◇	801+	大阪府立大学	78
◇	801+	立命館大学	22
◇	—	◎佐賀大学	63
◇	801+	埼玉大学	49
◇	801+	埼玉医科大学	151+
◇	—	◎滋賀医科大学	131-140
◇	801+	島根大学	=93
◇	601-800	▼信州大学	45
◇	801+	静岡大学	71
◇	801+	昭和大学	151+
◇	801+	上智大学	18
◇	801+	東海大学	85
◇	601-800	▼徳島大学	75
◇	801+	東京海洋大学	36
◇	801+	富山大学	=64
◇	601-800	◎豊橋技術科学大学	37
◇	601-800	▼山形大学	=43
◇	801+	山口大学	41
◇	601-800	▼山梨大学	=86
◇	801+	横浜国立大学	33
1001+	—	◎秋田大学	=68
◇	801+	▼千葉工業大学	121-130
◇	801+	▼同志社大学	35
◇	—	◎福井大学	42
◇	—	◎兵庫県立大学	82
◇	—	◎茨城大学	=72
◇	—	◎神奈川大学	=89
◇	801+	▼関西大学	57
◇	—	◎工学院大学	131-140
◇	801+	▼関西学院大学	40
◇	—	◎名城大学	96
◇	801+	▼大分大学	=93
◇	801+	▼芝浦工業大学	=58
◇	801+	▼東京都立大学	151+
◇	801+	▼東京電機大学	121-130
◇	801+	▼鳥取大学	84
◇	—	◎東洋大学	=76
◇	801+	▼宇都宮大学	53

\*「=」:同順位/「△」:ランク外/「▽」:前年よりアップ/「▼」:前年よりダウン/「◎」:初ランクイン \*同ランクでの掲載順は原則大学名の英語表記のアルファベット順による

# 今、国際競争力を高めるべき理由とその戦略

## ～問われる執行部の改革意思

Opinion

そもそも日本の大学に「国際競争力」が求められるのはなぜか？  
大学のグローバル化をサポートする立場から、ベネッセの事業責任者が語る。

### 改革努力とそのスピードが ランキング結果を左右する

日本は初ランクインした大学が22校ある反面、前回ランクイン校のほとんどが順位を落とすか維持にとどまりました(図表5-1)。一方、他国の大学をベンチマークし、ランキングに正面から対応した中国勢は躍進。大学が強い意志を持って改革を行えばランクが上がり、しなければ下がる、正直なランキングだと言えます。

ランキングによる大学評価には賛否がありますが、現実として、ステークホルダーに大きな影響を与えています。少なくとも、大学経営のKPIの一つに設定すべきでしょう。そのためにまずは、スコアやランクが上下するしくみを理解することが重要です。

しくみの一つとして、THEのランキングでは、論文数が減ると引用数が減り、評判が下がり、順位も下がります。世界の論文数は2005年から2015年にかけて大幅に増加していますが、日本の論文数は横ばいで、そのシェアは7.6%から4.4%に減少(図表5-2)してきました。この状況が続くと、日本の高等教育の国際的な立場はどうなるのでしょうか。

研究力を高め、論文数を増やすためには、人、予算、時間に優先順位をつけて、限られた原資を生かす戦略を立てることが大切です。そのベースになるのが3つのポリシーに基づいた特色ある教育です。海外の大学は、原資を投入する分野を絞って特色を強化しています。協定締結や学生募集上、その方が効果的だからです。

### 人口減、高大接続改革により 国際市場での競争が必然に

国内の18歳人口が減少期に入る事実を直視すれば、学生募集は国際市場に目を向けざるを得ません。

高大接続改革により、英語4技能、探究学習などの指導が高校において進み、日本の高校生が海外の大学を受験しやすい状況になっています。すでに、東大合格者

(株)ベネッセコーポレーション  
大学・社会人事業本部 統括責任者

### 藤井雅徳

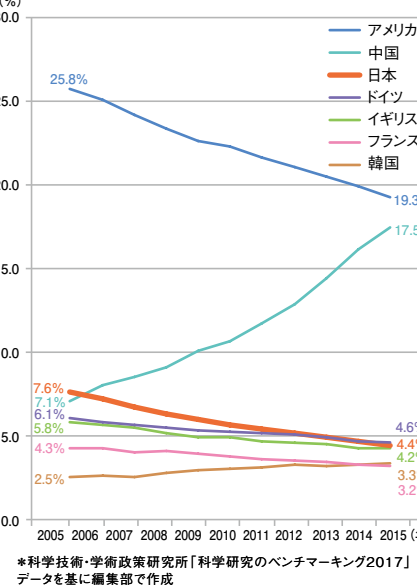
ふじいまさのり(株)ベネッセコーポレーション  
大学・社会人事業本部にて高校の教育改革支援や海外トップ大進学塾「Route H」開発に携わった後、現職。THE世界大学ランキングや語学・留学事業を通じて大学のグローバル化を総合的に支援。



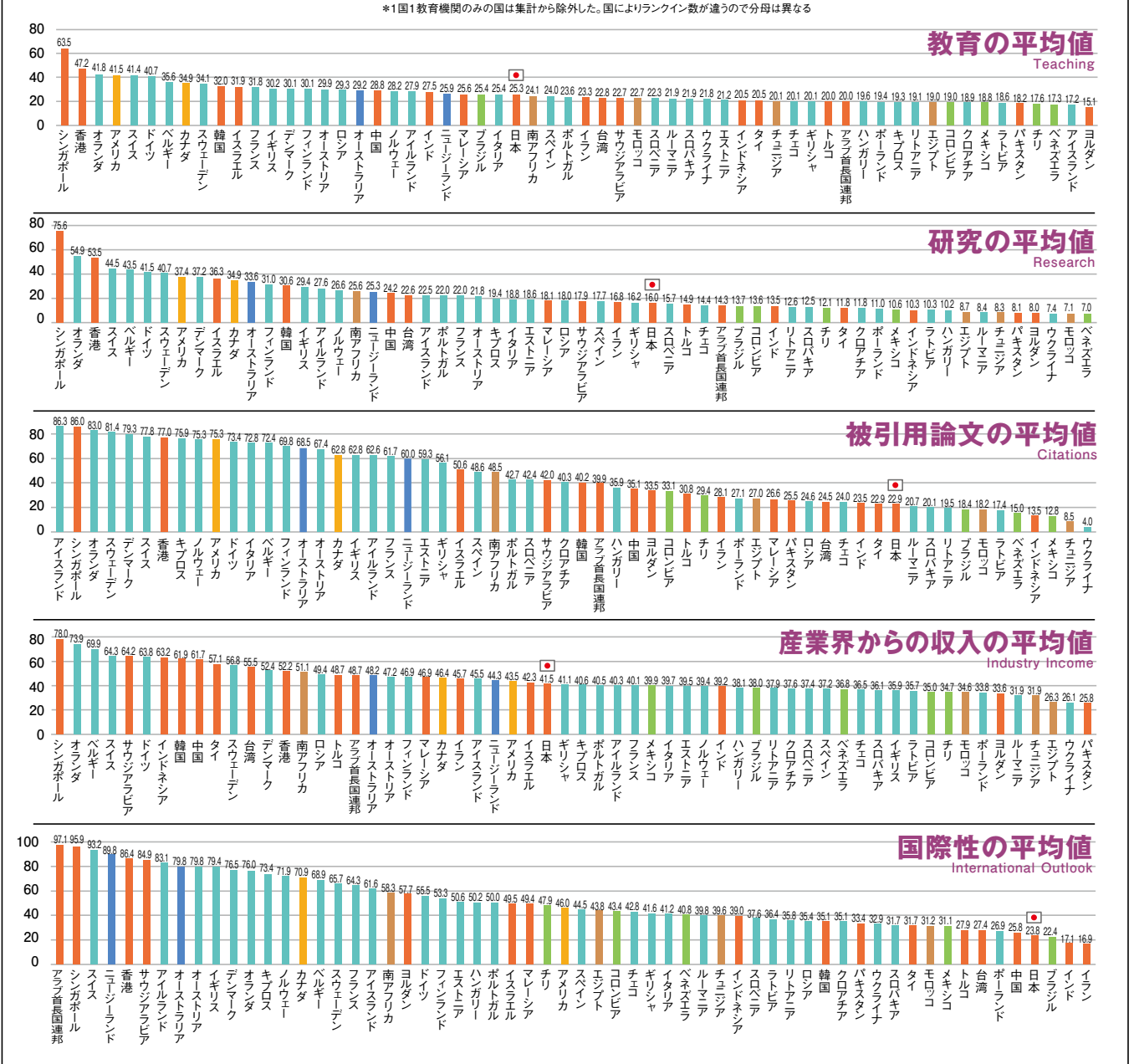
数トップの開成高校では、2017年度入試結果において22人がハーバード大など海外の大学に合格するなど、海外の大学を視野に入れた進路選択を行い始めています。こうした事実を踏まえ、国際市場に打って出る必要性を自覚した大学経営が行えるか、執行部の意思が問われています。

希望はあります。日本のランクイン数は2位のイギリスと4校差。世界2位の座につけば、各国の日本に対する見方が変わるでしょう。加えて2020年オリンピックを控え海外の注目を集めやすい今は、国際戦略を進める千載一遇のチャンスです。

### 年々低下する日本の論文数シェア ～主要国の論文数シェアの推移【図表5-2】



日本は教育のスコアは高いが、被引用論文数、国際性が低い 【図表4】  
～評価分野別各国の平均スコア



これは1992年のおよそ半分だ。これに国家財政の逼迫が加わり、当面の間多くの大学で資金力不足が続くだろう。

学生や教員のモビリティが高まり、世界規模の課題の解決策提案が高等教育機関に期待される。今、他国の大学は積極的にグローバルスタンダードで学べる環境を整えている。それに比べ、日本は研究者・学生共に海外からの受け入れが少ないなど、THEのスコアでは、5つの指標分野の中で国際性が最も低い位置にあり、被引用論文数も下位だ(図表4)。

日本の大学に期待される役割を果たすためにはこうした課題を直視し、取り組むべきであろう。その結果として大学ランキングのスコアが上昇し、研究・教育がグローバルスタンダードでなされている大学として存在感が高まり、大学間連携、留学生募集、国内募集に好影響をもたらす。つまり、国際競争力の向上につながる。

ランクを上げること自体を目的に据えては本末転倒だが、世界の中の自学の状況を確認してランキングを指標に改革を行うこと、また結果として得られたランクを改革に活用することは、今後の大学経営の重要なテーマと言えるだろう。